

「炎症性腸疾患関連消化管癌診療ガイドライン」の作成

研究分担者 石原 聡一郎 東京大学腫瘍外科 教授

研究要旨：IBDの薬物療法の進歩、長期経過例の増加によりIBD関連癌症例の増加が見込まれるが、IBD関連癌の診断と治療に関する情報は一般臨床医に十分浸透しているとは言い難い状況を鑑みて、「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班の協力のもと、大腸癌研究会編のガイドラインを作成することとなった。

共同研究者

田中 信治（広島大学大内視鏡医学）
久松 理一（杏林大学消化器内科）
松本 主之（岩手医科大学消化器内科）
浦岡 俊夫（群馬大学消化器・肝臓内科）
斎藤 豊（国立がん研究センター中央病院内視鏡科）
高丸 博之（国立がん研究センター中央病院内視鏡科）
仲瀬 裕志（札幌医科大学消化器内科）
長沼 誠（関西医科大学消化器肝臓内科）
藤井 俊光（東京医科歯科大学消化器内科）
渡辺 憲治（兵庫医科大学炎症性腸疾患センター内科）
松浦 稔（杏林大学消化器内科学）
池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）
杉田 昭（横浜市立市民病院臨床研究部/炎症性腸疾患科）
板橋 道朗（東京女子医科大学炎症性腸疾患外科）
内野 基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）
大北 喜基（三重大学消化管外科）
岡林 剛史（慶應義塾大学一般・消化器外科）
小金井 一隆（横浜市立市民病院炎症性腸疾患科）
高橋 賢一（東北労災病院大腸肛門外科）
畑 啓介（日本橋室町三井タワーミッドタウンクリニック）
東 大二郎（福岡大学筑紫病院外科）

二見 喜太郎（松永病院外科）
松田 圭二（帝京大学外科）
水島 恒和（大阪警察病院消化器外科）
渡谷 祐介（広島大学外科）
味岡 洋一（新潟大学分子・診断病理学）
菅井 有（岩手医科大学病理診断学）
河内 洋（がん研究会有明病院病理部）
下田 将之（東京慈恵会医科大学病理学）
吉田 雅博（国際医療福祉大学消化器外科）
山口 直比古（聖隷佐倉市民病院図書室）

A. 研究目的

IBDに関連する悪性疾患（主に消化管癌）の診断と治療に関して、明らかになっている事項と、解決すべき事項を示すことによって、IBDを専門としない臨床医はIBD関連癌の診療に関する現状を知り、専門医との連携をスムーズにし、IBDを専門とする臨床医は現時点で明らかになっている標準的診療と課題を知ることで、IBD関連癌患者の治療成績を向上させること。

B. 研究方法

Minds診療ガイドライン作成マニュアルに準拠して、下記の工程に従って作業を行う。

1. ガイドライン作成委員会の構成

2. CQのクエスチョン作成
3. 文献検索＋システマティックレビュー
4. CQのアンサー、推奨度、エビデンスレベル、解説文作成
5. 各論作成
6. 総論作成
7. パブリックコメント
8. 外部評価
9. 刊行

(倫理面への配慮)

研究者のCOIを明らかにし、各研究者はCOIを有するステートメントの作成には参加しない。

2. 実用新案登録
該当なし。
3. その他
該当なし。

C. 研究結果

令和4年度の時点で前項の工程4までが完了している。

D. 考察

次年度中に刊行できるよう作業を進める予定である。

E. 結論

ガイドライン作成に向けて、概ね順調に作業が進んでいる。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表
該当なし。
2. 学会発表
該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
該当なし。